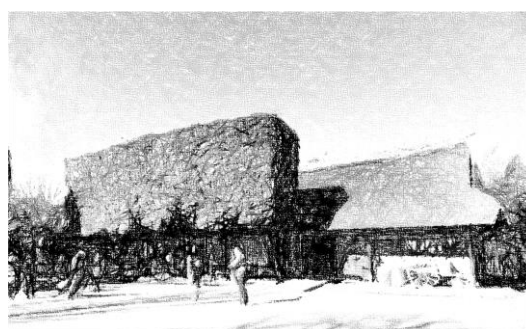


公益財団法人 小平市文化振興財団

第1次 経営計画

(令和5(2023)年度～令和9(2027)年度)

～ 親しみ 支え 育み つながる ～



令和5(2023)年3月

目次

1 はじめに.....	2
2 5年間(令和元(2019)年度～令和5(2023)年度)の数値目標等の検証と見込み.....	3
3 文化振興財団の理念.....	7
4 第1次経営計画の運営方針.....	7
5 各運営方針の基本姿勢.....	8
6 向こう5年間の経営目標.....	11
7 経営計画の実現に向けて.....	12



＜大ホールとベーゼンドルファー290＞

1 はじめに

公益財団法人小平市文化振興財団(以下、「文化振興財団」という。)は、平成5(1993)年7月に小平市の全額出資法人として設立されて以来、市民のための文化施設である小平市民文化会館(ルネこだいら)の管理・運営を通じて、小平市域の文化・芸術の振興と活性化を図るため、各種事業を展開してまいりました。

平成18(2006)年度からは指定管理者制度の導入に伴い、文化振興財団が小平市民文化会館(ルネこだいら)の第1期の指定管理者になるとともに、平成19(2007)年12月に市が新たに策定した「小平市の文化振興の基本方針」では、文化振興の「けん引役」に位置付けられ、柔軟性に富んだ文化振興を実現してきました。

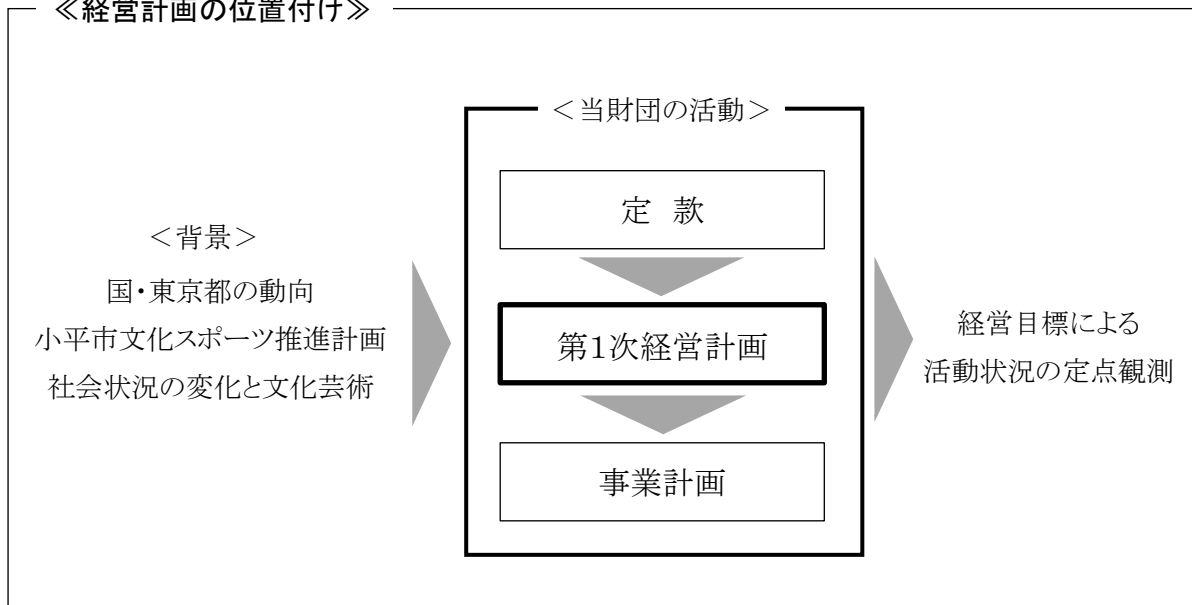
さらに、平成21(2009)年度からは、市指定文化財の建物が集約されている小平ふるさと村の指定管理者にも指定され、郷土文化の理解、継承及び発展も含めた小平市域の総合的な文化振興を担う法人として、一定の成果を上げてまいりました。

この間、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、世界的な脅威となった新型コロナウイルス感染症拡大の長期化や世界情勢の変化など、文化芸術の振興や活動に対して、大きな影響がありました。また、このような中、令和5(2023)年度には小平市民文化会館(ルネこだいら)の開館、小平ふるさと村の開園と当財団の設立以来30周年の節目を迎え、更なる発展と充実が求められています。

文化振興財団は、これまで指定管理者としてその指定期間ごとに担ってきた管理・運営事業の実績と進捗状況等を踏まえて、事業環境の変化に対応しながら公益目的事業のより一層の充実、公益性の向上や財務基盤の強化に向けた取組みを進めてまいります。

その実現を目指して、30年間の経験をベースに当財団の取組姿勢を新たに「経営計画」としてまとめ、今後5年間(令和5(2023)年度～令和9(2027)年度)の取組みを示すこととしました。

《経営計画の位置付け》



2 5年間(令和元(2019)年度～令和5(2023)年度)の数値目標等の検証と見込み

当財団が令和元(2019)年度から令和5(2023)年度の5年間で掲げた小平市民文化会館(ルネこだいら)と小平ふるさと村の活動状況を計るための数値目標と実績は以下のとおりです。

総評として、令和元(2019)年度終盤から国内中に広まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、催し物などの中止や人数制限など、その局面ごとに状況が変化する拡大防止対策に対応しながらの財団運営になりました。当面、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は続くと思われますが、今後も、感染の拡大状況に応じた予防対策、国や都の動向に注視しながら、市内の文化・芸術を振興する事業を展開してまいります。

《数値目標1》

小平市民文化会館(ルネこだいら)の年間入場者数 270,000 人以上を確保

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度末見込)	5年度 (2023) (見込)
250,280 人	52,919 人	111,497 人	185,000 人	250,000 人
評価	令和元(2019)年度終盤から世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主に催し物の中止や施設の利用制限が伴った関係で、年間入場者数が大きく落ち込んだ。その後、入場者数は徐々に回復し、催し物の開催制限等もほぼ無くなっているが、未だ感染に不安を抱いているお客様の影響もあると考えられることから、5年間の中で目標数値を越えることは困難な状況である。			

《数値目標2》

小平ふるさと村の年間入場者数 60,000 人以上を確保

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度末見込)	5年度 (2023) (見込)
62,240 人	39,126 人	56,777 人	63,000 人	60,000 人
評価	小平市民文化会館(ルネこだいら)と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたが、屋外型の施設であることの利点を生かし、コロナ禍にあっても可能な範囲で感染症拡大防止対策を徹底し、前向きに集客性の高い催し物を行った。結果として、お客様のご理解とご協力や関係者の努力もあり、5年間の中で目標を達成する見込みである。			

《数値目標3》

小平市民文化会館(ルネこだいら)の自主事業における来場者の満足度「平均 4.0 点以上」確保

(満足度…「満足」:5 点、「やや満足」:4 点、「普通」:3 点、「やや不満」:2 点、「不満」:1 点の 5 段階評価によるアンケートの実施)

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度末見込)	5年度 (2023) (見込)
4. 8	4. 9	4. 8	4. 8	4. 8
評価	感染症拡大の影響で、中止や規模を縮小して開催する催し物があったものの、実力派のオーケストラやソリストなどによる本格的で質の高い演奏会では高い評価をいただき、催し物全般について5年間を通して目標を達成する見込みである。			

《数値目標4》

小平ふるさと村の自主事業における来場者の満足度「平均 4.0 点以上」確保

(満足度…「満足」:5 点、「やや満足」:4 点、「普通」:3 点、「やや不満」:2 点、「不満」:1 点の 5 段階評価によるアンケートの実施)

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度末見込)	5年度 (2023) (見込)
4. 6	4. 4	4. 5	4. 5	4. 5
評価	施設内の雰囲気にあった様々な催し物を開催し、特に親子で参加する体験教室は、人気のイベントとなり定着している。5年間を通して目標を達成する見込みである。			

《数値目標5》

施設(貸館)利用者の満足度「平均 4.0 点以上」確保

(満足度…「満足」:5 点、「やや満足」:4 点、「普通」:3 点、「やや不満」:2 点、「不満」:1 点の 5 段階評価によるアンケートの実施)

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度末見込)	5年度 (2023) (見込)
4. 2	4. 2	4. 5	4. 5	4. 5
評価	館内の清潔感、受付や舞台スタッフの対応を中心に目標を上回る評価をいただいている。今後も研鑽を重ねながら、お客様に気持ちよくご利用いただけるよう、施設の運用を心がけていく。			

《数値目標6》

小平市民文化会館(ルネこだいら)が実施する自主事業数に占める鑑賞系事業以外の事業数の割合を30%以上確保

元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022) (年度未見込)	5年度 (2023) (見込)
45%	44%	43%	46%	49%
評価	夏休みフェスタや小学校への出前コンサート(啓発系事業)、吹奏楽フェスティバル(育成系事業)、ホリデーコンサート、たまほくミュージックフェスティバル(支援系事業)、フォトコンテスト(地域振興系事業)などを実施し、年代を問わず幅広いお客様に向けた催し物を開催している。			



上段左 夏休みフェスタ	上段右 出前コンサート
下段左 吹奏楽フェスティバル	下段右 春の高校演劇スペシャル

＜参考 文化振興財団の経営状況(平成30(2018)年から令和4(2022)年度)＞

【過去5年間の収支内訳 決算額(抜粋)】 (円)

科目\年度	平成30 (2018)	元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022) (年度末見込)
経常収益計	528,725,110	514,019,414	494,984,861	489,140,868	531,968,170
経常費用計	524,964,359	513,342,707	494,984,861	489,201,402	529,153,707
うち市返還金	0	0	20,286,549	0	18,500,000
当期一般正味 財産増減額	3,760,751	676,707	0	△60,534	2,814,463
一般正味 財産期末残高	56,400,763	57,077,470	57,077,470	57,016,936	59,831,399

【過去5年間の当財団の事業規模、指定管理料、市補助金額、職員数】

項目\年度		平成30 (2018)	元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022) (年度末見込)
自主 事業数 (本)	市民文化会館	60	53	32	49	54
	ふるさと村	44	39	22	42	42
	計	104	92	54	91	96
指定 管理料 (千円)	市民文化会館	412,775	419,819	425,499	423,139	448,141
	ふるさと村	39,383	39,810	40,615	39,334	38,544
	計	452,158	459,629	470,912	462,473	486,685
市補助金(千円)		1,618	1,634	1,545	1,566	1,549
職員数(人) (うち嘱託職員数)		18 (7)	18 (7)	18 (7)	18 (7)	18 (7)

【過去5年間の施設使用料、附属使用料 決算額】 (円)

年度	平成30 (2018)	元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022) (年度末見込)
合計額	76,494,804	62,462,743	54,788,578	59,895,154	74,557,000

※施設使用料と附属使用料は小平市民文化会館(ルネこだいら)の使用料であり、当財団が受領後、市へ送金している。

3 文化振興財団の理念

当財団の定款第3条では、財団の目的を次のとおり規定しています。

【公益財団法人小平市文化振興財団 定款】

(目的)

第3条 この法人は、小平市域の文化芸術の振興を図るため、すぐれた文化芸術事業を市民へ提供するとともに、市民の自主的な文化芸術活動や郷土に培われた文化を奨励育成することをもって、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。

当財団では、上記の規定を理念に掲げ、市民や地域の方々が文化芸術を始めるきっかけづくりや活動の継続へ貢献できるよう、公益財団法人としての責務を全うしていきます。そして、この理念に基づき、文化芸術を誰もが共有し、担い手を育て、まちへの愛着を持ちながら更に発展するよう、「～親しみ 支え 育み つながる～」をキャッチフレーズとして計画を推進していきます。

4 第1次経営計画の運営方針

当財団は、理念の達成に向けて、これまで指定管理者としてかかわってきた小平市民文化会館(ルネこだいら)や小平ふるさと村の管理・運営の実績、当財団を取り巻く現状と課題や環境の変化を踏まえ、当財団の設立30周年となる令和5(2023)年度を契機に、向こう5年間(令和5(2023)年度～令和9(2027)年度)の運営方針を以下のとおり定めます。

- 1 小平市の文化振興のけん引役として、文化・芸術と郷土文化の素晴らしさを発信・継承するとともに、様々な文化芸術事業を継続して展開します。
- 2 人と人のつながりを育む拠点となるよう、地域社会の発展と感性豊かな市民生活の形成につながる取組みを進めるとともに、市民の自主的な活動を支援していきます。
- 3 施設が安全・安心で快適に利用できるよう、お客様の利便性向上に向けた、高品質な維持管理と適切な修繕に努めます。
- 4 市から独立した公益財団法人として、市と連携・調整を密に取りながら、自立した組織の運営と安定した財団運営を目指し、活動の成果を広く市民に還元します。
- 5 催し物や施設管理などお客様からの声に真摯に向き合うとともに、不断の発想力や探求心を持ち、課題の発見と解決に努めます。

5 各運営方針の基本姿勢

- 1 小平市の文化振興のけん引役として、文化・芸術と郷土文化の素晴らしさを発信・継承するとともに、様々な文化芸術事業を継続して展開します。

当財団が得意とする吹奏楽やクラシックなどの音楽のほか、落語や歌舞伎などの伝統芸能、映画、写真や美術といった文化芸術や郷土文化の体験を身近な場所で体感できる拠点となるよう、市民ニーズに応える事業を進めてまいります。

主な取組

- 実力派アーティストの演奏やクラシックコンサートなど、世代を問わずお楽しみいただける魅力的な舞台活動を多彩なジャンルで実施します。
- 吹奏楽や演劇など将来の活躍が期待される次世代育成の取組みや普段コンサートに参加できない世代などへのアウトリーチ活動を進め、文化・芸術の裾野を広げていきます。
- 文化財である小平ふるさと村の価値を損なわないよう管理を行うとともに、市内で培われた文化、歴史や伝統芸能に触れる機会を充実させながら、市民のふれあいや賑わい創出の場となるよう、工夫を凝らした運営を行います。

- 2 人と人のつながりを育む拠点となるよう、地域社会の発展と感性豊かな市民生活の形成につながる取組みを進めるとともに、市民の自主的な活動を支援していきます。

平成5(1993)年7月、市により地域の文化・芸術の振興と活性化を図るため、文化振興財団が設立されてから30年、また、指定管理者として、小平市民文化会館(ルネこだいら)4期18年、小平ふるさと村3期15年に及ぶ当財団が培った管理・運営実績をベースに、施設のポテンシャルを生かし、質の高い、多彩なジャンルの文化・芸術事業を提供してまいります。そして、小平市民文化会館(ルネこだいら)を貸館として利用される方々や小平ふるさと村の催しに参加される方々を含め、文化芸術をこよなく愛する市民の活動スペースとなるよう利用者と連携を図ってまいります。

主な取組

- 新たに策定される「小平市文化スポーツ推進計画」の主旨を踏まえ、市民の期待に応えるベストパートナーとして、質の高い文化芸術の催し物を提供します。
- 「吹奏楽のまち こだいら」の更なる推進、子ども向けの芸術フェスティバル、小平市ゆかりの音楽家の記念祭や地域のアーティストの活用など市民参画の事業を継続します。
- 子どもから大人まで幅広い世代が楽しむことができる催し物を企画するとともに 将来の文化芸術を支える担い手づくり、貸館利用者へのサポートや様々な実施主体との連携・協働に取り組みます。

3 施設が安全・安心で快適に利用できるよう、お客様の利便性向上に向けた、高品質な維持管理と適切な修繕に努めます。

小平市民文化会館（ルネこだいら）は、建設当初、最新の設備を備えた圏域最大規模のホールでしたが、社会環境の変化や経年劣化などにより、お客様が望まれる施設のあり方も年を追うごとに変化をしています。また、小平ふるさと村も、シンボリックな佇まいである旧神山家住宅や実際に動く水車など、文化財でもある古い施設を可能な限り最適な状態に維持し、お客様のご要望にお応えしています。

今後も、施設の最適な維持・管理について不断の努力を行うとともに、予防も含め、施設の効率的な修繕に取り組み、お客様にとってバリアーのない施設の管理・運営を目指します。

主な取組

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、感染の拡大状況に応じた利用者への注意喚起や対策等を適切に行い、利用者が安心して利用できる施設環境を整えます。
- 長年にわたり、施設の管理に携わってきた強みを生かし、その時々合った修繕プランを検討し、施設を最適な状態に維持するとともに、可能な限り予防保全を意識した修繕を実施します。
- 小平市民文化会館（ルネこだいら）と小平ふるさと村は、開館・開園後相当の年数が経過しいずれは大規模な改修や修繕が必要な時期を迎えます。将来に向けて両施設が市民から信頼され、より安全・安心な利用ができるよう、同様な施設の改修や修繕状況を市と情報共有し、適切な施設の管理・運営に備えていきます。

4 市から独立した公益財団法人として、市と連携・調整を密に取りながら、自立した組織の運営と安定した財団運営を目指し、活動の成果を広く市民に還元します。

当財団は、市から出資され設立された公益法人として、社会的な信用のもと実績を重ねています。また、公益法人会計基準に従った適正な会計処理を行い、公益性のある経営を進めています。一方で、財団の運営費は市への依存が高く、収支相償の原則もあり、内部留保も難しいことから、財務基盤の強化が課題になっています。加えて、組織の観点では更なる職員能力の向上が必要です。

主な取組

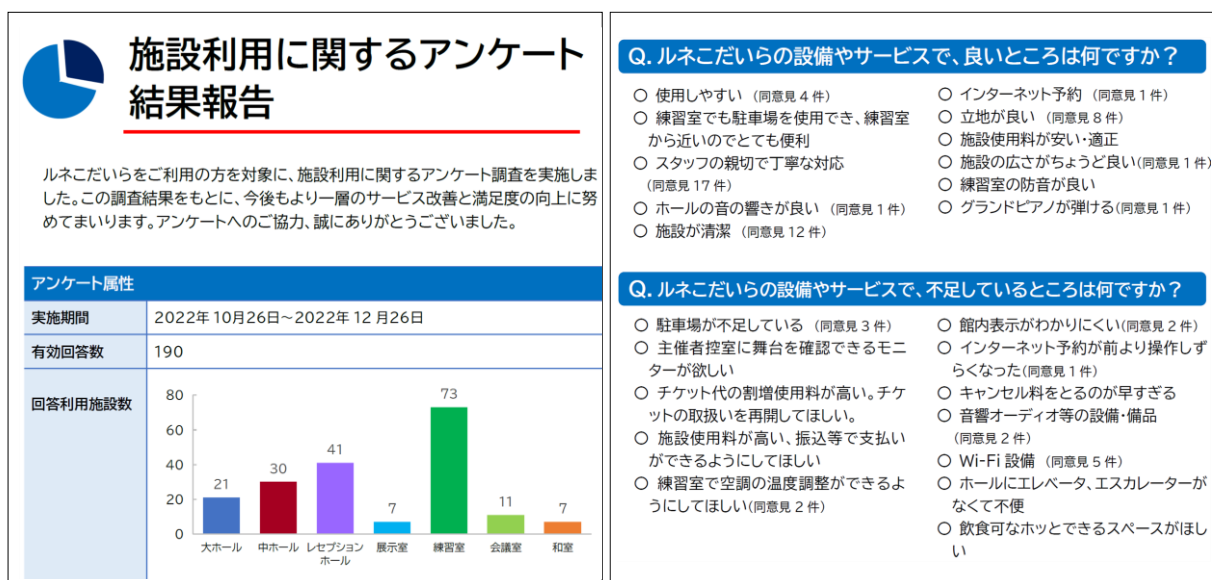
- 各種補助金の調達、特定費用準備資金や寄付金の制度を活用し財務基盤を強化します。
- 文化芸術に携わる職員のスキルとモチベーションを強化・向上するため、業務の目標管理の設定や他館の催し物のリサーチなど人材力の強化に取り組みます。
- 小平市民文化会館（ルネこだいら）は、駅に近く利便性の高い立地条件にあることから、市の地域防災計画に位置付けられた「帰宅困難者」の一時受け入れ先として災害発生時の避難者受入れなどの避難活動に協力します。

5 催し物や施設管理などお客様からの声に真摯に向き合うとともに、不断の発想力や探求心を持ち、課題の発見と解決に努めます。

財団の職員やスタッフは、常に進化と変化をする文化芸術について、利用者アンケートや他の施設の視察などを通じて、現在の文化芸術を俯瞰し、幅広い視点を持つとともに、市内の施設でありながら、お客様が気持ちよく、また来たくするようなクオリティの高い催し物の開催など、質の高い財団運営に努めていきます。

主な取組

- コロナ禍を契機に広がりを見せた催し物の動画配信、オンライン上で手続きが完了するチケット購入システムの導入や施設予約システムの見直しなど、デジタル化も取り入れながら施設機能の向上を図ります。
- 催し物終了後のアンケートや施設貸出などの利用者の声を把握し、ニーズやトレンドの動向にも注視しながら、魅力ある企画の検討や施設の快適な利用に向けた修繕など、お客様目線の施設管理・運営を心がけます。
- お手頃な価格設定のチケット販売、市内の公共公益施設や市民団体と連携した事業の実施など、公益財団法人だからこそ実施できる取組みを追及し、市民や利用者のみならず文化芸術の感動を共有していきます。



<施設利用に関するアンケート(毎年実施)>

6 向こう5年間の経営目標

本計画で掲げた運営方針を羅針盤に据え、当財団が蓄えてきた30年の経験を生かしながら、市民が楽しく魅力的な文化芸術に触れることができるよう、当財団の活動を推進していきます。

当財団では、その確認ができるよう、向こう5年間の経営目標を設定し、活動状況を定点観測するとともに、達成状況の分析を行い、経営状況の把握、個別事業の評価や年間事業計画の見直しに活用していきます。

<令和5(2023)年度から令和9(2027)年度の経営目標>

指標	基準値 令和4(2022)年度末 (見込)	目標値 令和9(2027)年度末
小平市民文化会館(ルネこだいら)の年間入場者数	185,000 人	270,000 人以上
小平ふるさと村の年間入園者数	63,000 人	63,000 人以上
小平市民文化会館(ルネこだいら)の自主事業における来場者の満足度	4. 8点	4. 8点以上
小平ふるさと村の自主事業における来園者の満足度	4. 5点	4. 5点以上
小平市民文化会館(ルネこだいら)の施設使用率	79%	83%以上

※経営目標の実績値については、毎年度の決算時に公表します。



<ふるさと村の村まつり>

7 経営計画の実現に向けて

(1)「ウイズコロナ」の中での施設運営

社会的に大きなダメージを与えた新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、市内の文化芸術活動にも大きなインパクトがありました。文化芸術振興の前提条件とも言える人々が集まること、触れ合うことに大きな制約がありましたが、市民のみなさまや関係者の努力と行動力により、各種コンサート、演劇や伝統芸能など様々な催し物を通じて文化芸術活動をけん引することができました。当面、コロナ禍の影響や余韻は当財団の活動においても感染症拡大防止対策など、感染の拡大状況に応じて一定の配慮・対策は欠かせないものになると思われますが、デジタル技術を利用した催し物の鑑賞環境の工夫や施設の機能更新など状況の変化を捉えた施設運営を行います。

(2)健全な組織体制

当財団の運営の基本となる人材(市派遣職員、固有職員、嘱託職員、臨時職員)は全員が一体となって、事業、経営、施設、財務、広報や調査研究など様々な業務を担っています。今後も職員一人ひとりが活躍する意欲と能力を高めることができるよう、適材適所を基本に人員配置を行い、働きやすい職場環境の整備に努めていきます。

(3)次期指定管理者選定に向けた対策

当財団は、設立当初から小平市民文化会館(ルネこだいら)を拠点に、すぐれた文化・芸術事業を企画・実施する主体として活動を進めてきました。また、平成21(2009)年度からは、それまでの実績をベースに市内の伝統文化の拠点である小平ふるさと村も当財団が指定管理者として管理・運営しています。これまで30年の間に市民やアーティストと培った経験、ノウハウや信頼関係を武器に、市が新たに策定する「小平市文化スポーツ推進計画」に描かれる市の方針も踏まえながら、計画的に次期の指定管理の選定に向けて準備を進めていきます。

(4)文化芸術の参画人口の拡大

アーティストの舞台芸術を「見る」、自らが主役となって「演じる」、将来の芸術家を「支える」といった多様な価値が享受できる環境づくりに努め、小平市民文化会館(ルネこだいら)や小平ふるさと村を中心とした文化芸術の参画人口の拡大を目指します。